



TITLE:

<大會抄録>「徴兵免除」嘆願書に みる一九世紀中葉エジプトの農村 社會

AUTHOR(S):

加藤, 博

CITATION:

加藤, 博. <大會抄録>「徴兵免除」嘆願書にみる一九世紀中葉エジプト
の農村社會. 東洋史研究 1990, 49(3): 596-596

ISSUE DATE:

1990-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/154328>

RIGHT:

(al-Ma'ūdī, 九五六年没)が著した、創世から彼の同時代に及ぶ世界史である。タリーフ (al-Talīf, 年代記)でなく、主題別の歴史敘述形式をとり、アフバル (al-ḥabār, 「情報」)の代表的作品といえる。地理など百科全書的内容を含む一方、イスナード (isnād, 傳承者系譜)や出典をあまり明示しない。第三―六章(この書の最初のまとまった歴史記述)は、神の天地創造からムハンマド以前の人々(イスラエルとアラブ)までを扱い、聖書の歴史に、アラブの傳説を加味し、シーア派から見た人類史となっている。

本發表では、この『前イスラーム史』の諸特徴(ムスリムの史觀とシーア派の世界觀ほか)を、タバリー (at-Ṭabarī)の『諸使徒と諸王の歴史』(「同時代の代表的な世界史」などとの比較をまじえて、検討してみたい。

「徴兵免除」嘆願書にみる

一九世紀中葉エジプトの農村社會

加藤 博

一八二三年、エジプト政府は農民の兵士としての徴發を開始した。以後、この徴兵は、近代的教育制度と並んで、國民國家エジプトの形成にとって根幹的制度として機能する一方、農業勞働力を奪う「血税」として、農民の怨嗟のまこととなった。

ところで、一九世紀中葉までのエジプトでは、村長を含む地方行政官の不正(ズルム)に對して、中央權力への直訴が認められてい

た。當然のことながら、こうした直訴の主たるテーマの一つは「徴兵」であった。

そこで、本發表では、エジプト國立公文書館に所藏されている『エジプト總督内閣官房トルコ語局文書』に收められている幾つかの「徴兵免除」嘆願書を紹介し、それらが作成された時代背景、それらの形式と内容を解説するなかで、一九世紀中葉エジプト農村の社會構造、およびそこに住む農民のメンタリティのあり様を少しでも明らかにすべく努めたい。

南宋の官米調達について

島居 一康

南宋における上供米は、當初は北宋の方式を踏襲し、年額約四七〇萬石に不足する部分は和糴によって調達していた。しかし紹興末年(一一六〇ころ)に兩稅秋苗の實徵額三三三萬石を上供額として固定したため、和糴は上供額との直接の關連を失い、これと並行して豐儲倉など諸倉の備蓄目標額にもとづき、諸官司によって隨時和糴が行われるようになった。中央の官員および禁軍兵士に支給する上供米の缺額補完を目的としていた和糴は、これ以後は獨自に諸倉に備蓄し、主に賑濟にふりむけることを目的とするようになる。

南渡後紹興末年にいたる三〇年ほどの間、兩稅秋苗の實徵米はその全額を上供していたため、州縣には地方官や兵員に支給すべき財源がなく、ときに實徵額の二〇〇%にも及ぶ加耗米を附加徴收して